

高齢者と障害者の自立のための

第41回国際福祉機器展 Int. Home Care & Rehabilitation Exhibition 2014

会 期：2014（平成26）年10月1日（水）～3日（金）

会 場：東京ビッグサイト 東展示ホール（東京都江東区有明）

出展社数：585社・団体（日本530社・団体、海外55社）※見込み

開場時間：午前10時～午後5時 入 場 料：無料（登録制：当日または事前）

主 催：全国社会福祉協議会 保健福祉広報協会

【開催内容】（予定）

第41回目を迎える国際福祉機器展 H.C.R.2014 では、高齢者や障害者の自立と社会参加の促進、家庭や福祉施設での介護の質の向上を目的に、杖・車いす・福祉車両、入浴・トイレ、住宅改造機材などの福祉機器、高齢者むけ食品や衣類など日常生活を支えるさまざまな生活用品を総合展示します。

また、最新の福祉・介護・リハビリなど役に立つ情報を以下のような多彩なセミナーなどの企画・イベントをつうじて、福祉関係者、企業関係者、そして一般の方々に提供いたします。

①福祉機器約20,000点を総合展示 **WEBにて来場者登録の受付を開始しました！**

②国際シンポジウムを開催（10月2日） **WEBにて参加申込の受付を開始しました！**

③H.C.R.セミナーを開催（10月1～3日） **WEBにて参加申込の受付を開始しました！**

福祉職から一般、福祉利用者、家族までをそれぞれ対象として、保健・福祉・介護をテーマに連日開催。

④出展社によるプレゼンテーション

⑤H.C.R. 特別企画

(1) 障害児のための「子ども広場」：

子ども用福祉機器の展示、機器の利用や療育に関する相談、発達障害のある子どものための住宅改造事例の紹介、子ども用車いすのトレーニングコーナー、保育士が常駐するひとやすみコーナーなどを実施。

(2) ふくしの相談コーナー

福祉機器や自助具などの相談コーナーを設置します。

(3) 高齢者・障害者の生活支援用品コーナー

旅を楽しむ「10のコツ！」と便利なグッズ展』を開催。関連グッズを展示・紹介。

(4) 福祉機器開発最前線

現在開発中の製品や新発表の福祉機器のデモンストレーション・集中展示。

(5) アルテック講座2014～身の回りにあるテクノロジー（アルテック）で創る豊かで楽しい生活

携帯電話やスマートフォンなど身近な機器の福祉的な利用方法についての解説・実演。

(6) 被災地応援コーナー

東日本大震災で被災した東北地方のセルブ（障害者授産施設）製品を販売。

その他にも、多彩なプログラムを実施予定。

I 国際シンポジウム

テーマ「ヨーロッパ諸国の認知症政策の現状を踏まえ、課題に挑む

～認知症への理解拡大と日本の支援活動の充実のために【プログラムNo.1】**手話通訳あり**

近年、高齢社会対策にかかわる重要施策について国家戦略を策定し、国民的な課題として社会全体で課題を共有しながら取り組みをすすめるようとする動きが活発になっています。とりわけ、認知症についてはヨーロッパ各国で国家戦略が策定されており、また、2013年12月には英国で「G8認知症サミット」が開催されるなど、世界的な共通課題となっています。

一方で、わが国においても、2013年から2017年までの「認知症施策5か年計画（オレンジプラン）」が策定されるなど、取り組みの加速化が図られています。

そこで、H.C.R.2014国際シンポジウムでは、英国から専門の講師を招き、EU各国のなかから認知症施策への先進的な取り組み経験を有する数国を選定して、当該の国々の特徴、現状や課題などを解説いただくとともに、日本の取り組みや課題と比較・対象をしながら学ぶことによって、わが国の認知症施策と支援活動の充実に資することをめざします。【日英同時通訳付】

○開催日時：平成26年10月2日（木）13：00～16：00

○会場：東京ビッグサイト会議棟6F

○参加者：高齢社会の課題や政策・制度に関心のある方であれば、どなたでも参加いただけます。

○講師：【ヨーロッパ諸国の状況報告】

George W Leeson（ジョージ・W・リースン）氏

オックスフォード大学高齢者研究所副所長、同大学ケロッグカレッジ上級研究員、
コペンハーゲン大学客員講師

【日本の状況報告】

服部 安子 氏

社会福祉法人 浴風会 浴風会ケアスクール校長

○チューター：近藤 純五郎 氏

一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会理事長、弁護士、元厚生労働事務次官

○参加費：1,000円

○参加申込方法：H.C.R.Webサイト（<http://www.hcr.or.jp>）からの事前申込となります。

○定員（250名）になり次第締め切らせていただきます。

【講義要旨】

第一部 講演「ヨーロッパ諸国とわが国の認知症施策の現状と課題」

1. ヨーロッパ諸国における認知症政策の状況と今後（ジョージ・W・リースン氏）

今後、認知症という難題に長期的に取り組むために、現在EU諸国内で実際に取られている政策を概観し、紹介する。

- ①ヨーロッパにおける高齢化と認知症を人口統計学的に分析し、その変化を近年から未来にわたり探る
近年及び将来的なヨーロッパの高齢化と認知症の人口変化を概観し、認知症を患っている人数変化の規模と、そのスピードに関する問題を明らかにする。

②個人や家族、コミュニティー、そして、政府が直面する問題と取り組むべきポイント

認知症は回避できない高齢者の病気であると考えられ、前触れもなく発症して、その個人、また、家族の人生にも非常に深い影響を及ぼす疾患である。一方、認知症は、「インクルージョン（社会的包括）」の観点から、地域コミュニティーへも影響があり、また、国家や地方行政レベルでは、認知症の財政面に及ぼす影響は明らかである。ここでは、ケアを受ける側と提供者側、そして、異なる様々な立場の関係者が直面しているいくつかの問題と課題を概説する。

③課題への対応…認知症（アルツハイマー病）に対する政策を、ヨーロッパのいくつかの国を例に、その取り組みを紹介する。

ヨーロッパのいくつかの国を選び、そこでの認知症への政策的取り組みを概観する。また、ヨーロッパ全体で採用されている認知症に対する戦略や提言などを考察する。

2. 日本における認知症政策の状況と課題、展望（服部安子氏）

①「オレンジプラン」を中心とした日本の認知症政策の概要

②地域で認知症患者を支えるための日本の取り組みの状況、今後の方向性

③現場が抱える課題と提言

第二部 質疑応答

※ 講義要旨の詳細版を、HCR Web サイト (<http://www.hcr.or.jp>) に掲載しています。

II H.C.R.セミナー

H.C.R.2014 では、わが国の保健福祉・介護・医療分野におけるさまざまな課題についての関連最新情報の提供や、福祉・介護職の資質向上をはかるための「H.C.R.セミナー」を東京ビッグサイト・会議棟及び東展示ホール内で開催します。

今年は、地域で生活されている高齢者の住まいや介護に関わる情報のほか、介護・福祉施設の現場で実践されているサービス向上のための工夫事例の発表や、質を高めるための知識や技術などを学んでいただく講座もさらに充実させて構成しています。ぜひ、ご参加ください。

○開催日：2014年10月1日(水)～3日(金)

○会場：【ブクログラムNo2】～【ブクログラムNo6】は、東京ビッグサイト・会議棟6階「605-608 会議室」

※10月1日(水) 14:00～16:30 の【ブクログラムNo3】のみ、上記の会場を2つに分割し、並行講義で実施します。

※A. 【ブクログラムNo2】～【ブクログラムNo6】は原則として事前の申込が必要です。また、セミナー共通資料(1部1,000円)を販売します。

B. 【ブクログラムNo7】は東京ビッグサイト・東6ホール内「特設会場C」(自由参加、先着順)

C. 【ブクログラムNo8】は東京ビッグサイト・東3ホール内「特設会場A」(自由参加、先着順)

◆A. 【プログラムNo.2】～【プログラムNo.6】…共通資料（1部1,000円により講義）

10月1日（水）

時間	テーマ	対象者	会場
11:00～12:30	【プログラムNo.2】 高齢者の住まいについて～基礎知識と選び方	一般、福祉サービス利用者・家族むけ	会議棟 6F
14:00～16:30	【プログラムNo.3】 福祉施設の実践事例発表 ～役立つ活かせる工夫とアイデア	介護・福祉職むけ	会議棟 6F（AB 分割）

10月2日（木）

時間	テーマ	対象者	会場
10:30～12:00	【プログラムNo.4】 介護で腰痛にならないための基本技術を学ぶ ～ボディメカニクスの理解と活用	一般、福祉サービス利用者・家族むけ	会議棟 6F

10月3日（金）

時間	テーマ	対象者	会場
11:00～12:30	【プログラムNo.5】 福祉施設での感染症の知識と対応 ～知っておきたい感染症対策のポイント	介護・福祉職むけ	会議棟 6F
13:30～15:30	【プログラムNo.6】 社会福祉施設等を元気にする生物資源の活用 ～高齢者の生活の質の向上から野生動物の皮革の利用まで	介護・福祉職むけ	会議棟 6F

1. 会場やプログラム名は変更となる場合があります。
2. それぞれのプログラムの定員・事前登録の要否、手話通訳の有無などについては、次頁以降のプログラムの詳細をご確認ください。

◆A. 【プログラムNo.2】～【プログラムNo.6】の詳細（予定）

10月1日（水）

11:00～12:30 **【プログラムNo.2】** 高齢者の住まいについて ～基礎知識と選び方 **手話通訳あり** **要共通資料**

2030年には3人に1人が高齢者になるという予測が公表されるなど、超高齢化へと向かうわが国において、一人ひとりの高齢者が自分に最も適した老後の生活の場と出会えるように支援し、その選択のために必要な情報を提供していくことは、重要な課題となっています。

現在、特別養護老人ホームでは多くの待機者がかかえ、とくに都市部などでは入居がとても困難になる一方で、入居する高齢者のさまざまなニーズに合わせた有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅など、施設や住宅の種類が増え、選択の幅が広がってきました。

本講座では、このように複雑で多様な高齢者向けの施設や住宅の種類や具体的なサービス内容、費用面や必要な手続き・条件などをわかりやすく解説するとともに、ご自身の状況と照らしてどのような住まいが最適なのか、その選び方のポイントを紹介します。

○主な参加対象者：高齢者及びその家族など ○定員：250名

○講師：灰藤 誠 氏 公益社団法人 全国有料老人ホーム協会 理事・事務局長

14:00～16:30 【プログラム№3】 福祉施設の実践事例発表

～役立つ活かせる工夫とアイデア 手話通訳なし 要共通資料

福祉施設の現場では、職員が利用者へ援助・支援を行うなかで創意・工夫をはかり、福祉サービスの質的改善や地域の福祉向上がはかられています。こうした質の向上を図るための創意・工夫の実践事例には、他の多くの福祉施設で活かせる工夫とアイデアが詰まっています。国際福祉機器展ではセミナーを開催し、多くの福祉施設関係者に各施設で取り組まれている実践事例を紹介します。

○主な参加対象者：介護・福祉施設関係者など ○定員：250名（AB会場合わせて）

【講座概要】

《A会場》

発表事例（予定）：

- ①通所介護における介護予防の検証
- ②褥瘡0（ゼロ）26年間の実践～実現する為の3つの指標
- ③ポールで楽しむウォーキング講座の実践と成果
- ④認知症ケア～バリデーション療法を通して行動の原点を探る～
- ⑤ハートピア堺式自立支援と認知症ケア、そして選ばれるデイサービス

司会進行：湯川 智美 氏（社会福祉法人六親会 常務理事）

《B会場》

発表事例（予定）：

- ①肢体不自由児の側弯の予防・改善～特別支援学校における取り組み
- ②社会貢献を考える エーデル土山のCSR活動
- ③地域の方々と施設利用者の日々の交流を創出するテラス活動
- ④福祉機器を使って・さらば腰痛
- ⑤やりがいのある職場を目指して

司会進行：久木元 司 氏（社会福祉法人常盤会 理事長）

※AとBの2つの会場に分割して並行開催します（プログラム中に会場移動できます）。

※当日受付を会場前において同日（10月1日）の13:00より先着順にて行います。

10月2日（木）

10:30～12:00 【プログラム№4】 介護で腰痛にならないための基本技術を学ぶ

～ボディメカニクスの理解と活用 手話通訳あり 要共通資料

腰痛は介護する方々にとって大きな課題です。リフトなど機器の使用、住環境の改善、介護者の体力改善、適正な介護の仕方（技術）の習得など腰痛にならないための工夫はいくつかあります。介護をする方は、これらの要素を組み合わせることで腰痛予防をおこなっていく必要があります。

ボディメカニクスは介護時の適正な姿勢や動作を確保し、介護する側・される側双方にとって楽に安定させる技術です。実演をもって、わかりやすく説明します。

○主な参加対象者：在宅で介護を行っている方、新任介護職員・ホームヘルパーなど ○定員：250名

○講師：青柳 佳子 氏 目白大学短期大学部 生活科学科 准教授

10月3日(金)

11:00~12:30 【プログラム№5】福祉施設における感染症の知識と対応

～知っておきたい感染症対策のポイント **手話通訳なし** **要共通資料**

福祉施設は利用者が集団で生活する場であり、感染症に対するきめ細かな配慮は欠かすことができません。特に高齢者や障害者は感染すると症状が非常に重くなることもめずらしくありません。福祉施設職員は感染症に対する正しい知識をもち、その予防に努めるとともに、発症時における適切な対応が求められます。

本講座では、高齢者・障害者施設における日常の感染症に関する知識と予防、発症後の対応策について学びます。

○主な参加対象者：介護・福祉施設関係者のほか、テーマに関心のある一般の方々 ○定員：250名

○講師：小坂 健 氏 東北大学大学院 歯学研究科 副研究科長

13:30~15:30 【プログラム№6】社会福祉施設等を元気にする生物資源の活用

～高齢者の生活の質の向上から野生動物の皮革の利用まで **手話通訳あり** **要共通資料**

人と自然の触れ合い、自然の恵みの活用といった観点から、生物多様性の豊かさが貴重な自然(生物)資源として高く評価されています。

本講座では、野菜の栽培が高齢者の生活の質の向上に役立っている例、野生動物の皮革の利用拡大が、生物多様性の保全や知的障害者の雇用確保につながる事例などを紹介しながら、福祉と環境の相互交流による相乗効果の可能性を探ります。

○主な参加対象者：介護・福祉施設関係者のほか、テーマに関心のある一般の方 ○定員：250名

【講座概要】

基調講演：社会福祉施設等を元気にする生物資源の活用

炭谷 茂 氏 社会福祉法人 恩賜財団済生会 理事長
社会福祉施設等の環境の取り組みに関する研究会委員長
一般財団法人 地球・人間環境フォーラム理事長

講演1：特養入所者の生活の質を高める野菜栽培

永井 伸一 氏 獨協医科大学 名誉教授

獨協中、高校の校長時代に取り組んだ屋上緑化、東日本大震災の被災地で実施しているグリーンカーテンによる省エネ事業などの経験から、みどりのもたらす様々な効果を教育や福祉の現場に取り込んでいる。特別養護老人ホームのお年寄りたちが取り組んだ野菜栽培によるクオリティー・オブ・ライフの向上について報告。

講演2：野生動物の皮革を有効活用することで広げる障害者の就労機会

田中 正幸 氏 岡山県セルプセンター 事務局長

日本列島ではイノシシ、シカなどの野生獣が増えすぎてしまい、肉や皮の有効利用が求められている。障害者のための仕事の共同受注窓口として発足したセルプセンターでは、地域ブランド「KIBINO」と名付けたイノシシ皮のバッグやスリッパを開発。障害者の就労機会の拡大に努めている。

講演3：MATAGI プロジェクトの目指す障害者の働く場づくり

山口 明宏 氏 皮なめしの老舗・山口産業専務取締役

MATAGI プロジェクト事務局長

伝統的な植物タンニンを使った皮のなめし技術を野生獣の皮にも活用し、たった一枚でも受け入れてなめし、産地に送り返す運動を展開中。各地の福祉施設等で、その皮を使っての皮革製品づくりが広がりを見せている。捨てられている野生獣の皮の活用と一石二鳥のプロジェクトの推進役。

司会・進行：社会福祉施設等の環境の取り組みに関する研究会

◆B. 【プログラムNo.7】の詳細（予定）…副読本を販売(1冊100円、3種類)、自由参加、先着順

特設会場 C (東6ホール内)

【プログラムNo.7】はじめての福祉機器 選び方・使い方セミナー 手話通訳あり

「基本動作編」「住宅改修編」「自立支援編」の3編をさらに10のテーマに分類し、以下の時間帯でセミナーを開催します。

1日 (水) 「住宅改修編」	11:00～12:00 「トイレ・排泄用品」 NPO 法人 日本コンチネンス協会 牧野 美奈子 氏		13:00～14:00 「住宅改修」 首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 准教授 橋本 美芽 氏		15:00～16:00 「入浴機器」 高齢者生活福祉 研究所所長 ／理学療法士 加島 守 氏	
2日 (木) 「基本動作編」	11:00～12:00 「ベッド」 福祉技術研究所(株) 代表取締役 市川 洸 氏		12:30～13:30 「リフト等移乗用品」 福祉技術研究所(株) 代表取締役 市川 洸 氏		14:00～15:00 「杖・歩行器等 補助用品」 高齢者生活福祉 研究所所長 ／理学療法士 加島 守 氏	15:30～16:30 「車いす」 公益財団法人 武蔵野市福祉公社 作業療法士 堀家 京子氏
3日 (金) 「自立支援編」	11:00～12:00 「コミュニケーション 機器」 東京大学先端科学技術 研究センター 人間支援工学分野教授 中邑 賢龍 氏		13:00～14:00 「福祉車両」 国立障害者リハビリテー ションセンター自立支援局 自立訓練部機能訓練 課自動車訓練室長 熊倉 良雄 氏 国立障害者リハビリテー ションセンター病院 リハビリテーション部 副理学療法士長 岩崎 洋 氏		15:00～16:00 「自助具」 ヒューマン 代表 岡田 英志 氏	

○主な参加対象者：高齢者、障害者及びその家族、新任介護職員、福祉機器企業関係者、学生など

○定員：200名（※自由参加、先着順にご案内いたします。）

※はじめての福祉機器選び方・使い方セミナーの副読本として、「基本動作編」「住宅改修編」「自立支援編」の3種類を会場にて販売しています。1冊100円です。

◆C. 【プログラムNo.8】の詳細（予定）…自由参加、先着順

特設会場 A (東 3 ホール内)

【プログラムNo8】 高齢者むけの手軽な日々の食事

～惣菜やレトルト食品をおいしくバランスアップ **手話通訳あり***

高齢者の一人暮らしや高齢者夫婦世帯が増えています。こうした世帯では、長寿化が進むにつれて、毎日の食生活のために料理をつくることも、栄養バランスを考えて手間をかけることも大変なことです。

そのため、日々の食事を市販のお弁当などで済ませる方も多くなっています。そこで、コンビニの弁当やスーパーの惣菜・レトルト食品などをもとにして、ひと工夫を加えることによって、簡単で、豊かに、かつ、栄養のバランスがとれる毎日の食事のつくり方を、実演を交えて紹介します。

- 主な参加対象者：高齢者及びその家族、ホームヘルパー、在宅サービス事業者など
- 定員：110名（※自由参加、先着順にご案内いたします。）
- 講師：虎の門病院栄養部

***この講座は、H.C.R.特別企画「福祉機器開発最前線【プログラムNo.13】」と同じ「特設会場 A」で開催します。時間割は以下のとおりとなります。**

***「特設会場 A」のセミナー・デモンストレーション開催予定表**

1日 (水)	11:00~12:30 福祉機器開発最前線・デモ		13:00~14:00 高齢者むけの手軽な日々の食事		14:30~16:00 福祉機器開発最前線・デモ
2日 (木)	11:00~12:30 福祉機器開発最前線・デモ		13:00~14:00 高齢者むけの手軽な日々の食事		14:30~16:00 福祉機器開発最前線・デモ
3日 (金)	11:00~12:30 福祉機器開発最前線・デモ		13:00~14:00 高齢者むけの手軽な日々の食事		14:30~16:00 福祉機器開発最前線・デモ

H.C.R.2014 新製品の紹介／福祉機器ガイドブックより

ムラテックシステム㈱ スマート徘徊見張り隊【コミュニケーション機器】 価格：お問い合わせください
～認知症患者の徘徊をセンサーで見守り、音や光で知らせます～

ドアセンサー、モーションセンサーを使って認知症患者の出入りを検知し、ランプやブザーで知らせることで、万が一の事故を予防し、リスクを減らすお手伝いができます。

矢崎化工㈱ トイレ用たっちあっぷⅡ CKJ-01【トイレ・おむつ用品】

～簡単にトイレに設置できる、新しい「トイレ用たっちあっぷ」です～

「トイレ用たっちあっぷⅡ」は、従来品よりも設置できるトイレ形状や設置場所が広がりました。

*上記の製品は、H.C.R.2014 福祉機器ガイドブックにお申込みいただいた新製品のなかから、掲載内容が確定したものを順次社名アイウエオ順で紹介したものです。特段の選考によるものではありません。

※注1：内容や日程は予告なく変更する可能性がありますので、ご来場の際は最新情報をご確認ください。

※注2：各プログラムへの最新のご参加内容については、H.C.R. Web サイト(www.hcr.or.jp)で順次ご案内します。

H.C.R. 2014 事務局

(財)保健福祉広報協会

〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル 5F

TEL. 03-3580-3052 FAX. 03-5512-9798

http : //www.hcr.or.jp